「水素・燃料電池（The Journal of Hydrogen & Fuel Cell Technology)」

論文投稿規程

平成24年６月13日　制定
令和８年７月30日　改訂

「水素・燃料電池」は（一社）水素・燃料電池開発情報センターから年４回発行される和文・英文の水素・燃料電池及び関連技術に関する論文、技術情報、記事などを掲載する学術雑誌であり、電子ファイルにて発行される。

1. 投稿資格

会員資格に関わらず投稿できる。

2. 論文の種類と内容

投稿論文は水素・燃料電池および関連技術分野における研究成果を和文または英文でまとめたもので、下記の種類のいずれかとする。

2.1 一般論文(Original Paper)
価値ある結論または事実を含む独創的な成果をまとめた独立した原著論文。

2.2 技術論文(Technical Paper)
工業技術に関連した新しい知見、価値あるデータ、方法などをまとめた論文。

2.3 ノート(Note)
断片的であっても新しい事実、価値あるデータ、方法などをまとめた論文。

内容は公刊されていないものに限る。なお、他誌に掲載された内容をさらに充実させ、本誌に報文または技術論文として再投稿することは妨げない。

3. 原稿の長さ

論文の原稿の長さは別表に記載された通りとする。

	原稿枚数目安	和文要旨	英文要旨	キーワード
2.1　一般論文	10 頁以内	400 文字程度*	100 語程度	5-10
2.2　技術論文	6 頁以内	不要	100 語程度	5-10
2.3　ノート	4 頁以内	不要	100 語程度	3-5

＊本文が英語の論文に関しては和文要旨を省略することができる。

4. 投稿原稿の書き方及び提出

著者は，本規定および別に定める執筆要領にしたがって原稿を作成するものとする。
原稿（図表写真を含む）は電子ファイルとして投稿票とともに電子メールで提出する。インターネット下記アドレスに送付するか、郵送もしくは宅急便で下記の住所に送付する。投稿時はPDF 形式で提出し、審査完了後に最終原稿をMicrosoft Word 形式等で提出する。
電子メールで送付する場合:　center★fcdic.jp　　注：“★”を“@”に変換
郵送などの場合：〒101-0063　東京都千代田区神田淡路町1丁目19番地　お茶の水ビジネスビル１階
（一社）水素・燃料電池開発情報センター　機関誌　係　宛て

5. 論文の受付

投稿は随時受け付ける。投稿論文が事務局に到着日した日をその論文の受付日とする。
提出された原稿は、その論文が不採択となった場合を除き返却しない。

	原稿締切日*	発行日（予定）
夏号	6月15日	7月30日
秋号	9月15日	10月30日
冬号	12月15日	1月30日
春号	3月15日	4月30日

＊原稿締切日-原稿の採用が決まり審査結果を通知した日が原稿締切日以前であれば、原則的に当該号に掲載される。なお、締切日、発行日は変更される場合があるので、事務局に問い合わせること。

6. 投稿論文の審査

原稿の採否は編集委員会が任命する査読委員の審査を経て、編集委員会において決定する。
編集委員会は著者に論文内容の訂正を求める場合がある。訂正を求められた原稿が返送日より２ヶ月以内に再投稿されない場合は、投稿を取り下げたものとみなす。

7. 著者校正

水素・燃料電池誌掲載に際しては著者校正を１回行う。著者は校正ゲラ刷りを受領後、締切日までに校正を行い速やかに返却するものとする。

8. 掲載後の内容訂正

編集委員会が認めた場合には訂正記事を掲載することができる。

9. 掲載料

投稿論文の掲載は有料とし、著者は投稿料金表に記載されている投稿料金（税込）を支払うものとする。著者のうち1名以上が会員である場合には会員価格が適用される。

会員	非会員
22,000円（消費税 2,000円）	44,000円（消費税 4,000円）

会員の定義：（一社）水素・燃料電池開発情報センター会則「第２章会員」で定める正会員・公共会員・特別会員・学術会員・海外会員。

10. 掲載後の論文について

掲載後に、著者は掲載済みの燃料電池誌の電子ファイルを受け取ることができる。また、申し出により著者の原稿部分のみの電子ファイルを受け取ることが出来る。別刷りは有償（実費）とする。

11. 著作権

掲載された論文の著作権は、（一社）水素・燃料電池開発情報センターに帰属するものとする。本誌は将来ウェブ上で公開されることがある。投稿者は、その著作権の（一社）水素・燃料電池開発情報センターへの移転を承認する。ただし著者が自ら著作した論文などを著者自身が教育、研究、普及の目的で利用することは妨げない。
著者が自ら著作した論文などを、営利目的で使用とする場合、事前に（一社）水素・燃料電池開発情報センターの書面による許可を受けること。他の著作物から、図表、写真あるいは文章の一部をそのまま転載する場合は、事前に必ず著者および、発行者の許可を求めること。その手続きに関しては著者が責任を負うものとする。

12. 適用期日

この規定は、平成24年6月15日から施行する。
平成24年11月29日一部改訂
平成26年9月１日一部改訂（一般社団法人化に伴なう改訂）
令和4年9月20日一部改訂（電子ファイルでの発行）
令和6年9月20日一部改正（掲載料の改訂）
令和8年7月30日一部改正（名称・原稿枚数・メールアドレス表記等の改訂）

執筆要領

平成24年６月15日　施行
令和８年７月30日　改訂

投稿原稿は次の要領に従って執筆するものとする。

1. 原稿

原稿はA4版用紙に横52文字45行、2段組みを原則とし、図表も本文中の適切な位置に組み込んで作成し、図表も含め総文字数が23,000字以内となるようにすること。なお、図表は組み上がりおよそ1段（縦横1:1程度の大きさ）で500文字相当程度となる。詳細なスタイルについてはホームページにある「投稿原稿作成見本（テンプレート）」を参照のこと。

2. 論文題目及び著者

表題、著者名、所属、氏名は、和文と英文の併記とすること。共著者の所属が異なる場合は該当する著者に上付き添字1,2などを付けること。投稿票には表題、著者名（全員分）、所属、住所、及び連絡者氏名（責任著者）の電話番号、ファックス番号，電子メールアドレスを記入すること。
論文にも責任著者（Corresponding author）のメールアドレスを記載すること。

3. 要旨

研究の目的、得られた結果、結論を簡潔にまとめる。一般論文は和文（400文字程度）と英文（100語程度、キーワード5-10個を選定）両方で作成する。本文が英語の論文に関しては和文要旨を省くことができる。
技術論文については英文（100語程度、キーワード5-10個を選定）、ノートについては英文（100語程度、キーワード3-5個）で作成する。

4. 本文

4.1　適切な見出しを用い、はじめに、方法、結果、考察、おわりに、謝辞、文献などとする。

4.2　式は本文中に含めて記載する。図(Fig.)　表(Table)は図表番号と説明を英文・和文の両方でつけること。なお、写真は図(Fig.)として扱う。

4.3　原稿にはページ番号を付記すること。　図（A4版の用紙に入る大きさ）、写真は十分な解像度（製本印刷時に300dpi以上となる解像度）で鮮明に作成すること。

4.4　英文字、ギリシャ文字、数字、記号は原則として英数字フォント（1バイト文字）を使用する。また一般的なフォントを用いることとし、特殊なフォントの利用は避けること。大文字、小文字、斜体、上付き、下付きなどの区別を明確にすること。

4.5　単位は原則としてSI単位系により記載する。化学物質名は原則としてIUPACの命名法に従う。一般的でない記号あるいは用語（外来語を含む）を用いるときは、注釈をつけること。

5. 引用文献

5.1　本文中で連続する3件以上の文献を引用する場合は[1)~3)]のように範囲を限定する。

5.2　引用文献リストは下記の凡例に準じ、著者名、表題名、雑誌名、巻、ページ、発行年の順に、雑誌の場合は略さずに書く。URLは引用可能であるが、原則としては公的機関による信頼できる情報に限り，日付が記載されたものとする。単行本の場合は、引用箇所の著者名、表題名、ページ、本の表題名、本の編（著）者名、発行所、発行所の所在地、発行年の順に記入すること。
著者が複数の場合は全員を併記し、間にカンマ(，)を入れること。著者名の後ろにコロン(：)、その他の各項目の間にすべてカンマ(,)を入れること、単行本の書名には、「　」（和書）または“　”（洋書）をつけること。 発行年は西暦を用い、［年］の字は入れない。
英文雑誌名はイタリック表記、巻号はボールド表記とすること。通しページでない雑誌の場合は、No.を入れること。

5.4　文献の記入例

1) C. Tassel:Stability of the infinite layer structure with iron square planner coordination, *J. Am. Chem. Soc.*, **130**, 3764-3765(2008)
2) Wu Xu, Keith Scott, Suddhasatwa Basu : Performance of a high temperature polymer electrolyte membrane electrolyser, *J. Power Sources*, **196**, 8918-8924(2011)
3) 鈴木茂政、加藤茂美：富士電機リン酸形燃料電池の発電装置の運転状況、第12回燃料電池シンポジウム講演予稿集、130-133 (2007)
4) 島川祐一：ペロブスカイト構造鉄酸化物薄膜における低温還元過程での酸素イオン拡散、燃料電池、**10-1**、135-139 (2010)

6.　投稿

6.1　原稿は電子データとして提出すること。投稿時はPDF形式で提出し、審査完了後に最終原稿をMicrosoft Word形式等で提出する。インターネット利用等に困難のある場合は事務局に連絡すること。

6.2　メールに添付して事務局へ投稿する場合のファイルの大きさは合計８MBまでとする。原稿のファイルサイズがこれを超える場合は図表ファイルを本文から適宜分離し送るか、事務局の指定する方法に従うこと。

6.3　図、表、写真の挿入位置は変更される場合がある。編集委員に一任すること。

6.4　電子ファイルでの発行となるため、本文中の図、表、写真においてカラー原稿はそのまま反映される。